

# 特集 東日本大震災

## 医療支援者に聞く

3月18日から27日まで宮城県仙台市・石巻市の避難所で、歯科検診を行った木村正信先生（中央区・歯科）に、話を伺った。

## 被災者一人ひとりへの声かけが大事

木村 正信先生（中央区・歯科）



震災発生を受け、一人で現地に入り、仙台市沿岸部

や石巻市避難所を回った。避難所に入り、歯科医師が来ていると校内放送で呼びかけてもらったが、自分から来られる方は少ない。教室を回り、一人ひとりと膝を付き合わせて話を聞いた。他には、簡単な入れ歯の調整やデンポラークラ

ワンの修繕なども行った。また、柔らかな歯ブラシと歯間ブラシが大変喜ばれた。特に、歯間ブラシは普段から使っていた方が多かったが、避難所には届きにくいものだったので、要望が大きかった。お渡しできる歯間ブラシの数にも限りがあり、必要な全員に欲しいだけお渡しすることができず、辛かった。

被災者への声かけには、非常に気を遣った。身内を亡くし、家や仕事も失った被災者の想えるストレスは非常に大きい。私も16年前、長田で被災した父を亡くし、「がんばろう」「復興」という言葉が非常に辛く、むなしく響いた記憶があるだけに、かける言葉がなく「お体を大切に」としか言えなかった。被災者に黙って寄り添い、ケアする人が

必要だと感じる。これから、地域のコミュニティの復旧が大事になる。国は阪神・淡路の経験を活かしてほしい。長田区では、行政が住民の希望を無視し再開発を進め、住民はばらばらになり、空き部屋の自立つ町になってしまった。あのようなことは繰り返してはいけない。早期に、住民の思いに応える復興の展望が示されることを願う。

## 東日本大震災に寄せて

赤穂郡・歯科 白石 一心

最初、東日本大震災の被災者の方々にお見舞い申しを申し上げます。

命を失われた方々に哀悼の気持ちをし、

を輩出する機会が増えることを期待します。医療・歯科・薬科・事務局の一体活動の利点を生かして、兵庫協会ならではの医療貢献や医療支援には何ができるか、検討しなければなりません。

私たちの経験した16年前の阪神・淡路大震災の教訓が生かせるよう、兵庫県保

険医協会の総力を結集し、被災地の方々のお役に立てるよう、あらゆる意見

を聞き、被災者の状態としては、口内炎やヘルペスが多かったです。他には、簡単な入れ歯の調整やデンポラークラ

を聞き、被災者の状態としては、口内炎やヘルペスが多かったです。他には、簡単な入れ歯の調整やデンポラークラ

しを



協会は3・27兵庫県民集会（一面報道）後に、元町・大丸前で東日本大震災救

しい

確認して

セプトの

（8桁）

」を記録

は事業所

場合にはそ

被保険者ま

被保険者であ

は国保連合

者である

支払基金